

平成30年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

1 附属高等学校天王寺校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員504人(1学級42人)

(4) 幼児・児童・生徒数

490人 (男子249人・女子241人 平成30年4月1日現在)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 0人, 教諭 28人(うち, 臨時的雇用5人, 再雇用職員2人), 非常勤講師 13人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人, 臨時用務員(調理師) 0人

2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、平成27年度SSH第2期の指定を受け、現在SSHの目的にそった教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、自治会やホームルーム等の集団における、生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取組を行う。
3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属高等学校天王寺校舎の平成30年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と「生きる力」を育てる活動を各教科・分掌で工夫し, 実践する。また, 自治会やホームルーム等の集団における, 生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 生徒の学力向上と, 自律的な学習・生活習慣 の確立を進める。	①学習環境に関する中高間の調整を円滑化する。(教務)	時間割関係の連絡を密に行い, 行事時等の調整もほぼ円滑に進んだ。	係ごとの連絡システムを作ることにより細かな調整をすること。	B	特になし	B	
	②自治会活動を筋道立てて実行させることで自律性を育てる。(生指)	生徒の現状に応じた指導が出来た。	議論の質を高めるために十分な時間の確保が必要である。	B	特になし	B	
	③生徒に多様な進路選択に役立つ情報を提供する。(進路)	学年との連携で進路HRを開催した。	特になし。	A	面談での話がクラスによって差がある。	B	指導方針について意思統一する。
	④指導内容に応じた授業形態を考慮し生徒間の自立的協働学習を促す。(英語)	語彙や文法, 技能面の指導や国際理解教育, 題材内容に基づく活動など指導法の模索をした。	これからの時代に即した中高一貫の指導法の確立が必要。	A	特になし	A	
	⑤課題解決的な学習過程を通じて自主的自律的な行動能力を高める。(体育)	生徒主体で自主的な活動を多く取り入れることが出来た。	怪我を防ぐためのコントロールの必要性を考えさせる指導が必要。	A	特になし	A	
(2) 互いの個性と能力を 尊重する態度を育成し, 協働を通じて個々の生徒 の力量を十分に発揮させる。	①中学の自由研究と高校の課題研究との連携を図る。(教務)	中学自由研究の優秀者が高校SSH発表会で発表した。	中学の自由研究指導法を高校で生かす体制の構築が必要	B	特になし	B	
	②自治会活動の諸場面を活用して, 自他を尊重した選択の力を育てる。(生指)	自治会指導においては常に意識した。	生徒同士の議論の活性化を促すことを通じて自治意識向上を図る。	B	特になし	B	
	③学習障害をテーマとした人権研修を実施し, 生徒の能力の発揮を支える。(健人)	災害が多く発生したことを受けて, 安全・災害対応に重点を移した。	年間計画の中で人権学習を位置づけ, 機会を確保する。	C	特になし	B	
	④思考力, 表現力, 探求力, 想像力を自律的に築く精神を育てる(国語)	小中高研究部会を計画通り3回行った。協同的な学びについて議論した。	小学校で取組んでいる, 言葉を根拠に論理的に考える力を育てる。	B	特になし	B	

⑤議論や発表の機会を増やして意見を発信する能力を高めるとともに多様な意見を相互に理解する態度を養う。(社会)	多くの授業で議論や発表を取り入れた。表現力の育成には一定の効果があったが、思考の変容には至らず、主体性は評価が困難であった。	発達段階に応じた目標と評価基準を設定し、発信力の育成と思考の質的変容のいずれかに重点を置いた指導を行う。	B	特になし	B	
⑥発見的、試行的な班活動を授業に取り入れる。校外での発表や学会参加を支援する。(数学)	教育研究会でアクティブラーニングの公開授業を行った。数学オリンピック等への参加生徒数が増加した。	成果の上がった活動を継続する。	A	特になし	A	
⑦パートワークの機会を増やし、共感と受容を通じて高めあえる授業を展開する。(音楽)	劇やジェスチャー、楽譜分析など音楽経験がない生徒の能力発揮の場を工夫した。	目を合わせることや声を出すことが苦手な生徒への心理学的アプローチについて専門家の支援を求める。	A	特になし	A	
⑧問題や課題の発見、提起を起点に対話的な学習を進める方法について他校の実践に学び情報提供する。(研究)	対話的な学習が具体的に行われる場面が増加した。他校研究会からの情報を日常の授業に生かした。	自己内対話を深めること。対話の定着に至る学習の形を明らかにする。	B	特になし	B	

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取組を行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	①模試の実施、入試説明会の案内、校内での講演会の開催を進める。(進路)	計画どおりに実施できた。	特になし。	A	特になし	A	
	②授業を通して心を豊かにし、自己実現につなげる。(音楽)	5年間一貫した教育で、心を育て、レジリエンスを高め、共感・受容の力を高めた。音楽系の進路を志望する生徒を既卒の生徒とつなげ交流を促した。	問題を抱える生徒に対する支援を、教科、学年が連携して進める。	A	特になし	A	
(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	①備蓄品管理を進め、緊急時対応カードを導入する。/緊急時対応マニュアルを改訂する。(健人)	緊急時対応カードを導入した。マニュアル改訂を行い、6月の地震を教訓とした防災避難訓練を実施した。小中高連携で宿泊型避難訓練を実施した。	カードを使いやすいものに改善する。マニュアルをさらに実効的なものに改善する。	A	災害への意識を高めるための機会をもっと設け、非常時の行動の確認もすべき。	A	ホームルーム等の場面を生かして働きかける。
	②教員に災害警報システムについて周知する。/営繕の必要な箇所への迅速な対応を進める。(庶務)	計画どおり実施し、また対応した。	きめ細かい対応を継続する。	A	特になし	A	
	③理科授業での実験実習において安全確保に努める。(理科)	化学・地学分野で器具の扱い方の変更、廃液の量の削減、保護メガネの着用等を進めた。	物理・生物分野や課題研究でも取組を進める。	A	特になし	A	
	④音楽室と研究室を教員生徒の協働で使いやすい形態に変えていく。(音楽)	物品整理を進め、機能性、安全性を高めることが出来た。	改修工事への対応。	A	特になし	A	

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 定期考査制度の変更等を活用し、多様な評価のあり方や、附属学校が担うべき役割に沿ったテーマでの研究、成果発信を行う。	①多様な評価方法を生かす教務処理の方法を工夫する。(教務)	定期考査回数を学期に1回とし、多様な観点に基づく学期末成績を算出、記載するようになった。	新たな評価のあり方の趣旨の理解を深め、積極的な活用を促進する。	B	特になし	B	
	②「主体的・対話的で深い学び」と「評価」との一体化について学校としての研究に取組む(研究)	授業実践を通して具体的に取組んだ。教育研究会で成果を提示した。評価については各教科で検討中である。	議論の場を増やして共通理解を深める中で教科の独自精を出す。	A	特になし	A	
	③定期考査の変更に伴う効果と課題を明らかにする。(研究)	変更への意識と具体的対応を整理した。変更に伴う変化の評価方法を検討中である。	評価方法の検討を進める。	A	特になし	A	
	④「見方考え方」「思考判断」の多様な評価方法について、大学と連携して研究、発表する(社会)	教育研究会で問題提起し、議論した。参会者のニーズに適合したテーマとなり、一定の役割を果たした。	大学との連携を、研究会に向けてのみでなく、日常的に進めること。	B	特になし	B	
	⑤大教大数学会での教育実践報告を充実させる。(数学)	大会において成果報告した。	さらに目標に沿った開発と発信を進める。	B	特になし	B	
	⑥筆記試験だけでなくパフォーマンステストのあり方を中高で模索・共有する。(英語)	教員ごとの取組にとどまり、共有化できなかった。	会議とは異なる形での情報共有の方法を工夫する。	C	昨年度より取組が進んでいると思う。	B	取組を継続する。
	⑦学校の研究テーマに沿って研究会発表を行う。(体育)	教育研究会で保健の授業で研究発表し、評価に関する議論が深まった。	情報発信の機会を増やす。	A	特になし	A	
(2) 社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取組を進める。	①社会に貢献でき広い視野を持った人を育成することをねらった講演会を開催する。(進路)	受験や奨学金関係の講演会を実施した。広がりを持つものは手がけられなかった。	将来を考えることにつながる内容の講演会を実施する。	B	特になし	B	
	②老朽化した体育施設の補修や安全点検を進める。(体育)	クラブハウス新築に伴い物品管理方法を工夫した。	器具庫の破損箇所等の補修等、今後も継続する。	A	特になし	A	
	③タイ国連携校との協働で、生徒の研究交流を進めると共に、教員の相互授業実施を進める。(SSH)	アジアスタディーの実施と共に、TJ-SSFにも参加し発表した。教員の授業も継続実施した。	取組を安定的に進める。	A	特になし	A	
	④米国連携校との協働による、文化交流企画を充実させる。(国際)	A SMSAの生徒が来日、滞在し、様々な交流活動を実施した。	より多くの生徒が関わる形態を工夫する。	A	特になし	A	

(3)学習指導要領の改訂に対応して、カリキュラム全体の改善を図る。	①中高のカリキュラム委員会での情報共有を進める。	学習指導要領の改訂に関わって、カリキュラム委員会と教務部が連携している。	今年度の情報収集に基づき、次年度具体的なカリキュラム策定を進める。	B	特になし	B	
	②校外で実施される説明会、研修会で情報収集し、次期カリキュラム編成に生かす。(進路)	得た情報を回覧し周知に努めた。e-Portfolioへの対応を進めた。	さらに取組を進める	A	特になし	B	
	③今後の教科指導のあり方を検討するために、中高合同で新指導要領の研修を進める。(社会)	研究会に向けては取組めたが、継続的なものとはならなかった。	計画的に研究を進める。そのための時間を確保する。	C	一定程度取組めておりそれほど低く評価しなくて良い。	B	
	④4技能のバランスが取れた育成のためALTの授業を充実させる。(英語)	題材中心の授業展開を進め、ALTとのTTを活用した。ALTの授業力向上にも取り掛かった。	取組をさらに進める。	A	特になし	B	

学校関係者評価における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・担任との面談において、進路に関する情報や話題の提供など、クラスによる差が大きいと感じる。入試への心構えが違ってくるので、ある程度共通してほしい。 ・面談に先立って、相談したいことをアンケートをとるなどして、話したいことを引き出してほしい。 ・生徒主体という指導方針はわかるが、行事の時期を見直したりも出来るのか。先生側からの働きかけがほしい。 ・避難訓練等はされているが、もっと普段から防災意識を高めるように、ホームルームで話題にするなど、意識付けの機会をたくさん持ってほしい。
---------------	---

